

ヨシガモ

(学名: *Anas falcata*)

(写真・文 太田祥作)

【カモ目カモ科】



▲ 左が雄、右が雌。雄の頭部は見る角度によって赤紫色に光る

只見町では晩秋から初冬にかけて、渡り鳥のカモが観察しやすくなります。只見地区の「只見湖」と塩沢地区の「滝湖」は、どちらも比較的水深が浅い上に、餌も多いことから、多くのカモが滞在します。ヨシガモもまた、晩秋から姿を見せるカモの1種です。ヨシガモは、北海道やユーラシア大陸の寒冷地で繁殖し、本州以南へは越冬のため渡来します。只見町で見られるカモの中では少数派ですが、雄の美しい羽色などから存在感のある種です。雄の特徴として、「ナポレオン帽」と形容される金緑色の頭部と、体の後ろに長く垂れ下がった白黒の三列風切が挙げられます。頭部がこのような形をしているのは、後頭部の羽毛が長く発達して「冠羽」を形成しているためです。一方、雌は全身が茶褐色の羽色をしており、地味な印象を受けます。

カモは種によって餌の好み異なるため、それぞれの種で決まった餌の採り方をします。ヨシガモの場合は植物食で、イネやヒエの仲間などの種子や、クロモなどの水草、また、海藻も餌にします。水面を泳ぎながら種子を啄んだり、浅く潜って水草を採り、時には陸上を歩いて草を食べたりします。このような野生のカモが自然の餌を採ることのできる環境が保たれることが大切です。なお、餌やりは鳥インフルエンザの感染拡大や、水質悪化、鳥の生態の攪乱など様々な悪影響がある行為なので、やめましょう。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。
皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「自然素材を活かす技

～木地、編み組、草木染めと伝承製品の魅力～

会 期：2022年10月29日(土)～2023年3月27日(月)

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー